



M.M

神奈川県環境学習リーダー会 会報

No. 26

2002 年
4 5 月

役員会報告

4月役員会 4月26日(金)

1. 新役員自己紹介
2. 会費納入状況 未納者 14 名
(本人に確認後名簿作成)
3. 清水代表挨拶
今年度の活動方針と問題点の確認
4. 役員役割分担と年間スケジュールについて意見交換
5. 環境計画課の「環境学習アドバイザー」制度の協力とそのあり方について
(次号で詳細報告予定)
6. 会の名称変更に伴う件
会の略称 Kリーダー会(案)
連絡会ニュース 会報(決定)

題字部カット：テリハノイバラ

三浦半島の大楠山山系は暖帯の植物が多くあります。初夏の雑木林で真白に花びらをせいっぱい開いているテリハノイバラ。中心の黄色いおしべが鮮やか。葉はつやつやしていてノイバラより厚い。

5月役員会 5月16日(木)

1. 環境科学センター定期往訪の件
6月5日14時 先方確認決定
2. 環境展(6月9日)の当日スケジュール確認
3. 子ども環境体験教室の開催
PR方法確認(チラシ・広報・学校案内等)
4. 藤沢養護学校から依頼の環境学習
渡邊吉一氏を窓口として協力
実施は2学期
5. 会の活動について意見交換
(個人活動と部会活動、地域単位の活動)

地域に密着した活動をする 中核団体をめざして 4月に総会開催

4月20日(土)環境科学センター2階で、当会の平成14年度総会が開催され、会員35名が参加した。

総会では、清水代表の「連絡会の知名度も次第に上がり、活動も活発になってきた。会の在り方を2つの面から考えたい。ひとつは神奈川県という大きな地域から。もうひとつは人材という面である。会員は神奈川全域に渡り、幅広い人材がある。その活用について、5つの部会を広く考え、多様化を図って行きたい。内向きではなく、対外的に講師派遣や展示会などの活動を考えていく。地域に密着した活動を展開できる中核団体をめざしたい」との挨拶から始まり、所用で途中から出席の環境科学センターの片桐所長から「環境問題は行政だけでは解決できない。行政の責任とは何かと考えると、諸問題を市民と話し合い、紛争になる前に未然に防止すること。仕事としての付き合いもあるが、個人としても付き合い合っていきたい。会には側面から支援して行きたい」旨の挨拶をいただいた。また、環境科学センターの野崎氏・生駒氏は「4月1日に赴任したばかり、市民活動を全面的に支援していきたい」と挨拶をされ

平成14年度役員

代表	清水 幸夫 (5期)
副代表	石丸 博司 (9期)
事務局長	児玉 勇 (6期)
事務局	高橋 尚道 (7期)
事務局	(兼)柳川 三郎 (9期)
会計担当	山田 あや子 (8期)
広報部長	森 千春 (7期)
事業担当	
(環境モニタリング部会)	飯野 牧夫 (9期)
(エネルギー部会)	萩原 秀人 (6期)
(ケナフ部会)	小川 正敏 (6期)
(自然環境部会)	柳川 三郎 (9期)
(廃棄物・リサイクル部会)	(兼)石丸 博司 (9期)
(新規プロジェクト)	木本 光昶 (8期)
監事	内藤 克利 (7期)
監事	近藤 作司 (8期)

注：部会長名は「部会年間活動計画」欄をご覧ください。

た。生駒氏は今年度のこども体験教室の担当者でもある。

その後、7期の村山和永氏が議長に選出され、議事進行が委託された。総会は会員数189名のうち、出席者35名、委任状提出者88名の計123名で総会
(次頁へ続く)

(前頁から続く)

は成立(規約 15 条 2 より)したと山田役員より報告があった。記録係は森役員に委嘱された。

議事に入り、それぞれの担当役員より平成 13 年度の 1 年間の活動報告(第 1 号議案)、収支報告(第 2 号議案)の説明が行なわれ、さらに、14 年度の新任役員(第 3 号議案)、活動計画(第 4 号議案)、会の規約改定(第 5 号議案)、予算(第 6 号議案)につ

清水代表に聞く

代表として 2 年目を迎えられた清水さんに今年度の取り組みについて、どのように考えられているのかお話を伺いました。

質問 1: 活動について

(1) 部会活動の活性化について

これからのリーダー会は多彩な地域活動と多岐にわたる部会活動が柱だと考えます。

従来の地域活動が主な活動の頃は、情報交換の場としての親睦団体に近い“連絡会”でよかったのですが、改名したリーダー会では“組織”としての部会活動が強く望まれます。14 年度の乏しい予算のなかから、部会活動費として、会費収入の 50% 強の予算が計上されています。

また、リーダー会は他の環境団体には見られない特徴として多岐にわたる専門家の集団といえますし、5 年後には 300 人の会員が予想されます。このために、部会の充実と部会の巾を広げることが大切です。その結果として、総合的な機能をもつユニークな環境活動団体として位置付けられると考えられます。

部会としての活動を活性化するためには、学習活動は勿論ですが、人の和と活動資金の確保が大切です。また、その活動のあり方としては対外的な活動に視点をおいてもらいたいと思います。対外活動の強化によって、その部会活動を理解してもらい、自信ができ、信頼されることによって、はじめて活性化につながります。

また、運営面からみると、規約 14 条の運営部会についての見なおしと、ホームページの充実などの情報部会の設置が必要になるかと思います。

(2) これから検討する 2 つの部会(自然環境部会、廃棄物・リサイクル部会)についてどのように方向づけるのか

2 つの部会とも、重要な部会と認識しています。組織の部会としての活動が伴わなかった理由はいろいろあると思いますが、これらの分野では、活動対象や手段、方法が巾ひろいので、あらたな事業担当役員を中心に活性化する努力をいたします。

いて説明がなされ、すべての議案が承認された。第 5 号議案の規約改定が承認されたことにより、当会の名称は『神奈川県環境学習リーダー会』になった。

(承認された内容は別掲、改定規約は同封)

その間、各議案について活発な質問や意見が出された。(主な質疑応答は別掲)

総会終了後、平塚駅ビル 6 階屋上のリビエラホールにて 20 余名の参加者を得て、懇親会を行なった。

(3) 新規プロジェクト(環境教育、PRTR)と NPO について

環境教育は環境問題の深刻さに関心をもってもらい、理解してもらい、行動につなげていただくことですので、すべての活動がこれにあたり、リーダー会としても重要な課題と認識しています。これを具体化することが課題で、地域での環境の生涯学習や子供環境教室の支援、教材の作成など多くが考えられますが、できる事から具体化していただければと思います。また、会員の地域での活動を組織化し連携することも環境教育につながると考えます。

PRTR 法については、本年 4 月から実施されますが、リーダー会として、どんな形で取り組めるかを検討してみたいと思います。この問題は 2 年前に元代表の田口さんが部会として取り上げられた経緯があり、多岐にわたる分野の一つとして取り組めればと考えています。

今年度は起案していませんが、NPO の取得については、昨年のニュースやアンケートで議論しましたが、私は取得する方向で進むべきだと考えていますし、会員の有志のような形もありうると思っています。引き続き検討を重ねていきます。

質問 2: 資金の確保について

(1) 運営資金確保のための助成金、受託事業などについて

昨年度の役員会で運営資金の確保の議論が高まり、本年度の大きな課題の一つになっています。

各種の環境保全活動助成金や受託事業に類することを積極的に取り組むつもりです。現在、環境アドバイザーなど具体的事項もありますので会員の方々のご協力をお願いします。

(2) 会費の値上げについて

この問題は会員の皆さんが決定することだと思います。そのためには、リーダー会の方針、実状を説明し理解していただく努力が必要ですし、リーダー会としても資金確保の努力をすべきです。

環境問題は人類永遠の課題の一つだと考えますし、リーダー会も活動を継続することに意義があると思います。現在は、活動する方々の完全無償の奉仕で行なわれていますが、なんとか継続可能な体制作りをしたいと願う一人です。

平成 14 年度 活動計画

基本方針：

地球規模から身近なところまで、環境問題が重要なテーマとして前面に打ち出されてきている現在、我々会員の活動の重要性も一層大きくなってきている。

その認識のもとに昨年に引き続き、会員個人またはグループで取り組んでいる環境保全活動をより有効に手応えのあるものにしていくため、会員相互の情報交換・相互研鑽していく「場づくり」を積極的に行ない、会員の英知と力（パワー）を最大限に発揮できるように努める。

更に、行政・企業・他の環境活動グループとの連携を深めて、積極的な情報発信を行なうと共に地域に密着した活動が展開できる中核団体を目指していく。

活動計画：

実施項目	内 容
1. 会員間の相互研鑽	<ul style="list-style-type: none"> ・自然観察会と意見交換会 各1回 ・各種外部セミナー等、有益な案内情報の提供（会報、メール）
2. 活動状況の对外発表	<ul style="list-style-type: none"> ・環境展（6月）の開催 ・「市民環境活動報告会」（2月）の開催
3. 広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「会報」の充実 最前線での活動の取材と報告 ・ホームページの充実 （http://members.tripod.co.jp/k_leader）
4. 部会活動の活性化 （地域別ネットワーク作り）	<ul style="list-style-type: none"> * 環境モニタリング部会 * 廃棄物・リサイクル部会 * エネルギー部会 * ケナフ部会 * 自然環境部会 * 新規プロジェクトの起案（環境教育・PRTR）
5. 行政との連携と協力体制 ・環境科学センター	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども環境体験教室の開催（環境実習室の活用） ・環境モニタリングの実践（調査協力） ・環境実践者養成（支援）講座への協力
・神奈川県	<ul style="list-style-type: none"> ・「地球温暖化防止活動推進員」制度への積極的支援 ・「環境学習アドバイザー」制への協力・受託 ・「エコタウンかながわ in かながわ」等への参加
・各市(区)町村	<ul style="list-style-type: none"> ・市町村企画の環境保全活動・環境学習への参加・支援
6. 環境活動団体との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境ネットワーク」（ストップ温暖化ネットワーク、かながわ森林づくり公社、かながわ海岸美化財団）の充実 ・各会員所属団体等との連携 （県・市町村の行事への共催による参加）
7. 地域活動のための組織の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとに担当者の決定 （部会活動の協力、行政・他団体との地域における連携）
8. 連絡会の運営	<ul style="list-style-type: none"> ・総会（年1回）の開催 ・役員会の開催（定例会月1回） ・各「活動計画」の推進、支援 ・活動財源の確保（受託業務の推進・助成金の獲得）

14年度 部会年間活動計画

環境モニタリング部会

以下の主要事項について実施していく。

1. 環境科学センターが開発した「県民参加による環境モニタリング手法」の実践

昨年に続き自然度調査（タンポポ、ツバメ、ジョロウグモ）NO₂濃度調査を実施する。本年度は特に、より実効性の高い調査票の採用により普及の拡大を図るとともに、昨年末に田村了一氏によって紹介された“田村式地図情報化システム”により、調査全数の地図情報化を図っていく。夫々の調査時期は以下のとおりとする。

尚、得られた“環境マップ”については、本リーダー会のホームページで可及的速やかに公表していく予定である。

自然度調査

タンポポ : 主として4月
ツバメ : 主として6月
ジョロウグモ : 主として10月

NO₂濃度調査

6月度調査

サンプリング : 6月6日～7日
分析測定 : 6月15日

12月度調査

サンプリング : 12月5日～6日
分析測定 : 12月14日

2. 「酒匂川水系探水隊」活動の推進

昨年度から実施してきた同探水隊活動を本年度も推進していく。4月21日をかきわりとして、11月まで月1回程度のペースで実施を図ることとする。尚、本年もKERECの石綿専門研究員に、毎回ご指導いただく予定である。

平成14年度部会長

環境モニタリング部会	佐伯 秀夫	(1期)
エネルギー部会	北村 博子	(5期)
ケナフ部会	荒谷 輝正	(6期)
廃棄物・リサイクル部会		
自然環境部会		

3. 環境科学センター「子ども環境体験教室」への参加

本年度、環境科学センターが開催する標記「子ども環境体験教室」に関し当部会としては、参加希望者により「学習研究会」を編成して対処していくこととする。そして、本年度当部会が担当する下記3つの教科については、夫々に責任者を定め、カリキュラムづくり、テキストづくりを行い、効果的な学習の実現を図る。

担当教科

川の水質に関する環境調査 : 7月21日
大気に関する環境調査
捕集管組立等 : 8月6日
サンプリング : 8月6日～8日の24時間
分析測定 : 8月9日
動植物に関する環境調査 : 9月8日

4. 对外発表「環境展」への参加

本年度、本リーダー会の主要行事の一つとしてリーダー会主催の对外発表「環境展」を下記により開催することになっているので、当部会としても積極的に参加していく。特に当部会としては、展示によりモニタリングの普及を図るとともに、7～9月に予定している「子ども環境体験教室」のPRの場としても活用を図ることとする。

月日 : 6月9日(日)

場所 : 県民サポートセンター1F 展示場

エネルギー部会

平成13年度は、「神奈川環境学習リーダー・エネルギー会」が「横浜市環境保全活動助成金」を獲得しましたので、小学生や地域の“環境学習・教室”を広げていく足がかりを作ることが出来た1年でしたが、14年度はその活動に更に、厚みと幅を加えて

いけるようにと部会では新メンバー共々、今年度の活動の展開に期待をかけています。

1. 自主制作

- 1) 省エネ学習プログラム・メニュー作成
- 2) エコ紙芝居：“地球温暖化”
- 3) ネイチャーゲームの手法を借りて?
- 4) 省エネカレンダー (次頁へ続く)

(前頁から続く)

2. “親と子の楽しい省エネ教室” 後援

- 1) 14年7月21日
- 2) 14年11月17日
- 3) 15年2月2日
- 4) “省エネ教室” のフォローアップ

3. 子ども環境体験教室 (KERC)

“楽しい省エネ教室” 担当

- 1) 7月28日
- 2) 8月24日

4. 省エネ共和国 (協力)

- 1) ENEX 展出展
- 2) 省エネ共和国サミット参加

5. 市民環境活動報告会発表・展示

6. 地域小学校総合学習・生涯学習支援
“省エネ学習” 講座

7. 定例部会

5月～10月 : 第3日曜日

11月～3月 : 第2日曜日

* 14時～17時

かながわ県民活動サポートセンター

興味・関心のある方は、是非ご参加下さい。
お待ちしております。

連絡先: 045-474-1617 (北村)

ケナフ部会

環境科学センター及び環境学習リーダー会のご協力と支援を得て、ケナフ部会の活動も4年目に入りました。環境科学センターの隣地を延長して利用させて頂く為に過去3年間の活動状況を纏めましたが、今更ながら貴重な体験をしたなと思っています。この経験を生かして、地球環境の改善と言う共通の目標に貢献出来ればと決意を新たにしました。

本年度も昨年同様、環境学習リーダーとして各々の地元でリーダーとなり、地域同士の連携をはかり、環境科学センターを利用して頂き、更なる研修を図っていきたくと考えています。

具体的には;

1. 各地で催す展示会に積極的に参加します。

5月9日～14日、平塚市民プラザでのケナフフェア展に出展。

6月9日 環境学習リーダー会主催「親子で楽しむ環境展」県民サポートセンター等を現在予定しています。

2. 子ども環境体験教室開催

環境科学センター実習室

6月29日「古紙を利用した写真立て作り」(仮題)、
9月7日「ケナフ染め」(仮題))。

3. 各地でのケナフ紙漉きに協力していきます。

ケナフの紙漉き協力については横浜市、平塚市、藤沢市、相模原市、愛川町等の各地でケナフ部員が協力要請されています。昨年同様小学校からの協力依頼も来ています。

4. 地域でのケナフ部会の結成に協力していきます。

相模原市では4月6、7日での「相模原桜祭り」で紙漉きの実演をしました。

5. 更なる研究活動及び講演会を開催します。

4月25日 香川県産業技術センター小林良生先生講演会「タイ国のケナフの現状と市民活動としてのケナフ」開催。

環境学習リーダーの更なるブラッシュアップの為、環境科学センターのご協力を得て、昨年からは一部実験を始めた、ケナフ染め、炭焼き、編物等の更なる充実を図るとともに、講演会等も積極的に開催する所存です。

最後に環境学習リーダーのご支援、ご協力の程をお願いします。

廃棄物・リサイクル部会

ただ今、今年度の活動を検討中です。
次号で報告します。

自然環境部会

ただ今、今年度の活動を検討中です。
次号で報告します。

活発に質問・意見 総会での議案審議

総会で審議された各議案には活発な質疑・意見が交わされました。主な質疑応答は次の通りです。

第1号議案（13年度活動報告）関連の質疑

【Q】9期の修了者は40名いたが、入会したのは24名。もっと多くが入会すると思っていたが、少ない。今までこのような講座を修了した者のうち、どれくらいの人数が入会しているのか？

【A】1～9期で約360名修了し、現在会員は189名。連絡会の会員でなくとも、地域で活動している人もいるし、また高齢になって退会した人もいる。

第2号議案（13年度決算報告）関連の質疑

【Q】会費未納者が多い。活動を活発にすれば、活動費が足りなくなる。会費の値上げを考えたかどうか？

【A】アンケートでも活動費の不足することを伝えてある。即会費値上げというのではなく、受託事業などを受けて活動費の確保を考えたい。

第4号議案（14年度活動計画）関連の質疑

【Q】ホームページ（HP）の充実という意味はわかるが、環境科学センターのHPから独立するのはなぜか？

【A】同センターの予算の問題があり、独立を促されていた。当会独自のHPを最近開設した。

【Q】同センターのHPからもリンクできるとよい。

【A】リンクできるようにしたい。

第5号議案（規約改定）関連の質疑

【Q】「連絡会」だけをはずすのはどうしてかわからない。連絡会だってよい。名前を変更する必要があるのか？もし変更するなら、もっとよい名前があるのではないか？

【A】この2～3年いろいろ活動をやってきた。助成金、NPOなどについて学習してきたが、「連絡会」は助成金の対象外であった。

この案は1年かけて検討してきた。県が養成した環境学習リーダーである。環境学習リーダーという名前は認知度が高くなってきたので、「環境学習リーダー」という名は残したい。

第6号議案（14年度予算）関連の質疑

【Q】予備費の残高が昨年の半分になっている。会費の値上げや収入源の確保を早急にする必要がある。予算を組むときどのように考えたのか？

【A】助成金確保のため、具体的な行動を起こしている。県から環境アドバイザーの話をいただいたので、運営協力金について1年をかけて考えていきたい。会費の値上げについては他の環境活動団体の活動費・会費を参考にしていきたい。

【Q】印刷費の項目について、県民サポートセンターでは2,000枚まで無料であるが、そのような情報もっているのか？

【A】できるだけ安く、負担を少なくしようと工夫している。県民サポートセンターでは1日2,000枚まで無料なので、2,000枚を超える場合は2日に分けて印刷している。

印刷・発送費は削れるかどうか、むずかしい。3月の意見交換会では「ニュース」をメールで出せばよいという意見があったが、「ニュース」の内容が充実して頁数が多くなるとメールでは困難である。

【Q】欧米ではすべてメールである。

【A】いろいろな意見があるので、紙媒体で発信したい。

【Q】役員会に出席する役員の交通費が支出されていない。受託事業で収入が増える可能性があるので、増えたら交通費を計上するための補正予算を作るということを付帯決議としてはどうか？

【Q】繰越金を食い込んでいるところを受託事業で抑えられるということなので、前年度並みの繰越金を残したいという予算の立て方だと思う。提案には賛成できない。

【A】ありがたい提案だが、実際にはないものを仮定で予算は組めない。来年度に今の提案を生かしたい。

「連絡会ニュース」

から「会報」へ

“ニュース”という言葉が新しい情報を提供することなら、いままで広報部が発行してきた「ニュース」は新しい情報というより、会員相互の研鑽や活動状況・情報などの内容に変わってきています。そこで、「連絡会ニュース」から「会報」へタイトルを変更し、より充実した紙面作りを行なっていきます。会員のみなさまからの情報をお待ちしています。

「環境展」について

6月9日付け“リーダー会”主催“親子で楽しむ環境展”は、計4回の実行委員会を重ねて、“リーダー会”の今までに無い形での“会”の「情報発信」の場として行なうこととなりました。

“リーダー連絡会”が“リーダー会”へと改名し、“会”の活動の充実と発展を更に必要とするこの時期に、今まで以上に、会員が一体となって“リーダー会”としての事業を推進していくことの重要性を思い、この“環境展”がその契機の一つとなることを願っています。

一般の大人から若い人たち・子どもたちまで、幅広い層の人たちに環境問題への関心を持って貰い、日常生活の場等身近な環境の中での環境保全の実践を、沢山の人が心がけてくれることを願って、“リーダー会”各部会と地域で活動している会員リーダーの活動の成果を、分かり易い形で展示する事にしています。

“リーダー会”となった以上は、地域で積極的に活動を展開している会員リーダーの方々も、部

会がしている事だからと無関心に受け流さないで、“リーダー会”としての新しい事業を盛り上げ、成功させるために積極的に参加をお願いいたします。

記

* “親子で楽しむ環境展”

* 日時：14年6月9日(日)10時～16時

* 場所：かながわ県民サポートセンター
1階展示場

* 問合せ：TEL/FAX 045-474-1617(北村)

内容

親子で楽しく 体験・実験できる環境展
“調べてみよう、身近な環境”

* 電気が見える? おもしろ電池・エコカルタ

* 調べてみよう身近な環境 水質・大気・生物

* ゴミが気になる人 集まれ!

* かながわの自然 ちょっぴり体験

* 何が出来るかな ペットボトル・牛乳パック

* ケナフの紙漉き 展示

* 特別出展 “塩の王冠” 清水代表作

ホームページの運用について

環境科学センター(KERC)に間借りしておりました当会の『ホームページ』を早い段階で撤退してほしいとの要請を、KERCから昨年受けていました。(2002年3月までにとのことでしたが、実際は未だ引きずっています。)

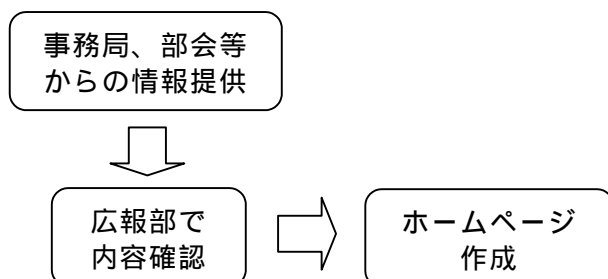
ホームページの引越し先を探してきました結果、下記の無料サイトに登場させることになりました。

http://members.tripod.co.jp/k_leader/

KERCからは、KERCの環境の広場にリンクを張ってもらうことになっています。

ホームページは公開されますので、下記のように運用します。

ホームページアップまでの流れ:



掲載までの時間:

情報提供から1週間以内

掲載するもの:

1. 各種案内
2. リーダー会、部会の報告
3. リーダーの活動報告
4. 会報
5. 各種リンク先(事務局、広報部で決定)

掲載のルール:

1. 政治、宗教に関連する記事は掲載しない。
2. 掲載記事については、発信者の意思を尊重し、基本的には修正をしない。(修正が必要な場合には情報提供者に確認を取る)
3. ホームページは、会報が隔月発行であるので、その間の情報発信を補完する役割を負う。
4. 部会は、掲載が途絶えないように協力する。
5. ホームページの管理責任者は広報部とする。

= 豆知識のページ =

グリーンタフ

新緑の季節がやってきて、自然界では動植物の営みが活発になってきました。そこで、今回は自然観察に関わっている団体「グリーンタフ」について、同事務局長の武部正彦さんにかがいました。

【Q】グリーンタフって何ですか？

【A】(財)日本自然保護協会が自然観察指導員を養成する講習会を毎年十数回開催していて、この講習会の修了者で、神奈川県内で活動する人たちの会です。

会の名称は「神奈川県自然観察指導員連絡会」であり、その愛称が「グリーンタフ」です。

グリーンタフとは、神奈川県在地層の基盤にある緑色凝灰岩のことですが、“グリーンにしてタフネス”つまり“緑の強者(つわもの)”という意味を掛けたものです。

会はNPO法人ではない任意団体です。

【Q】会の生い立ちと会員数は？

【A】日本自然保護協会の最初の自然観察指導員養成講座が1978年に開催されました。その2年後の1980年に当会が設立されたので、会は今年で22年になります。

現在の会員数は約350名です。

【Q】会の目的は？

【A】会の目的として次の項目があります。

- 会の名前に“連絡会”が付いているように、会員相互の情報交換と会員に向けての自然関係の情報伝達を行なう
- 会員の資質・能力の向上を図る
- 会員に活動の場を提供する

平塚で行った 落書き消しの方法

最近いたるところで落書きが、目に付くようになりました。平塚では、タギングといわれる字が中心ですが、シャッターに書かれた絵もあります。また、ポールは張り紙が出来ないように溝が入ったものが巻かれているため、一工夫必要ですし、金融や風俗の張り紙も取るのに一苦労です。

平塚でこの5月に行った落書き消しの3つのパターンを紹介します。

【Q】どんな事業をやっていますか？

【A】次の事業を行なっています。

会報(月刊)の発行とホームページの掲載
会員の研修会の開催

テーマ観察会、地域研修会、テーマ研修会という3種類の研修会を行い、会員のレベル・アップを計る。昨年度は16回実施、今年度は13回を予定。

市民向けの自然観察会の開催

次の種類の観察会を行なっている、

- ・厚木市の自然環境保全センターで観察会(毎月第1日曜13時~、他)
- ・座間市の県立座間谷戸山公園で観察会(毎月第3日曜13時~)
- ・箱根で観察会(今年は5/11、6/8、9/7、10/26)
- ・行政、企業、市民団体からの依頼に応える自然観察会

自然観察指導員講習会を日本自然保護協会と共催(今年は5/31~6/2)

横浜市の新任教師向けに地域理解の研修会(昨年実施、今年はその関連の出版を企画)

自然関係諸団体との交流(自然保護活動への協賛や参加、シンポジウムや展示会等への参加など)

【連絡先】

〒247-0014

横浜市栄区桂台南2-1-7

武部 正彦さん(グリーンタフ事務局長)

TEL 045-892-4464

FAX 045-895-4884

e-mail CZV01740@nifty.com

http://www.seapple.icc.ne.jp/~murata/gtafu.html

【1】「絵を上書きして落書きをされないようにする」

七夕のポール8本に絵を描いてもらい、再発を防止する(紅陽中学校美術部と知的障害者絵画グループの夫々に4本ずつ絵を描いてもらいました)

- 手順:(1)さびや汚れを取り、張り紙をはがす。
(2)ベースのペンキを塗る。(今回は薄いブルーにしました)
(3)絵を描く。絵を描くという方法は厚木JCにヒントを頂きました。

(次頁へ続く)

(前頁から続く)



七タメインポールの落書き



紅陽中学校美術部員による絵描き

【2-1】「シャッターの絵を溶かして拭き取る」

基本的にはシャッターは個人の持ち物です。消してよいかの許可をもらい、作業します。

溶剤は「ラベルストリッパー」(張り紙をはがすとき使用するもの)と関西ペイントさんが特殊調合してくださった溶剤を使用しました。(いずれもボランティアへの無料提供品)

ペンキが溶けたところをやわらかい竹ブラシでちらし、やわらかく拭き取ります。(強く拭き取るとシャッターのもともとの塗料まで取ってしまうので注意が必要です)

【2-2】「ポールに書かれた文字を溶かして拭き取る」(ブラシを使うことにより作業性増大)

当初トルエンで消そうとしましたが、ポール1本4人交代で30分以上かかりました。(最終的には不採用)

新溶剤はトルエンと同じように危険物取扱い品ですが、5分位の作業で落書きは消せました。

【3】「張り紙をはがす」

張り紙をはがすには、「ラベルストリッパー」を薄く塗り、2分くらい経ったら、拭き取ります。

この作業を数回繰り返すことにより張り紙を除去します。



シャッターの落書き



消した後(再発防止対策は今後検討)

6月NO₂調査へ参加のお願い

環境モニタリング部会

下記の要領で、NO₂調査を行います。会員のみ皆さんの多数のご参加をお願いします。

1. 調査目的

例年6月は“かながわ環境月間”にあたり、県下で一斉に同時サンプリングによるNO₂調査が実施されます。当部会でも発足以来全会員に呼びかけ、6月の一斉NO₂調査を行ってきましたが、本年も下記の実施方法により実施します。

今回の調査対象は、昨年の12月一斉NO₂調査の時と同様に

1) 身近な環境のNO₂濃度

2) 主要幹線道路の高濃度地点を選び、各々の地点のNO₂濃度

とし、コンピューターにより“NO₂環境マップ”を作成します。

参加費は無料ですので、前回までの参加者はもとより、新たな会員にも参加していただきたいと存じます。とりわけ9期のみなさんには、NO₂測定が体験出来る絶好の機会ですので、多数、ご参加下さい。

2. 実施方法

1) 参加対象者

当部会員

リーダー会の希望者

当部会員が推薦する県民

2) サンプリング

指定サンプリング日時

・捕集管の取付け：6月6日(木)

18:00以降

・捕集管の取外し：7日(金)

24時間サンプリング

サンプリング場所

・測定者の身近な地点(自宅の庭、周辺道路等)

・周辺の主要幹線道路の高濃度地点(前回測定地点は、出来るだけ今回にも含めて下さい)

3) 捕集管の組立及び配付

日時：6月1日(土)13:30~16:00

場所：環境科学センター1F実習室

(集合13:30)

(注)配付希望の方は、是非、ご出席下さい。

4) 分析測定

日時：6月16日(日)13:30~16:30

場所：環境科学センター1F実習室

(集合13:30)

3. 連絡先および問合せ先

環境モニタリング部会 佐伯 秀夫

〒232-0071 横浜市内南区永田北 1-14-23

TEL/FAX 045-711-6170

会員の広場

酒匂川水系に生息する メダカの保護活動に参加

3期 杉崎 茂

平成8年小田原市から環境基本計画策定の参考資料として、市民参加により『身近な生き物調査』に、環境ボランティアの立場から協力依頼があり、同計画策定協力員となって、酒匂川水系の水路にメダカの生息調査をして数匹の生息を確認した。ただちに環境保全課に通報すると同課職員が同水路を調査して、初めてメダカの生息を確認した。

メダカは魚類の部で県が1995年・レッドデータ生物調査報告書に、絶滅危惧種として指定されており、県内唯一の自然水系に生息する貴重種として知られた。

このため、メダカの生態や保全のため生息分布と現況調査を行なう必要があり、平成9年2月『市民メダカ調査団』を市民と行政が協力するため結成し、責任者として1年がかりで、市民と環境保全課の職員と共に、酒匂川水系の水路数ヶ所にメダカの生息や現況を確認することができた。

また県内水面試験場に報告し、市環境保全課に

メダカの保護について要望書を提出した。

平成9年8月酒匂川水系にメダカの生息分布が確認され、『メダカの学校』の池に生息していることから、市民の手による保護を中心とした保全策の研究や検討をするため、学校教育関係・地元自治会代表・自然保護団体代表と一般市民十数名、行政関係部門の職員から市民メダカ会議が組織され、現在まで11回会議が行なわれて、メダカの生態と保護策の立て看板の設置、メダカのお父さん・お母さん制度・ミニシンポジウムなど、飼育を通じて環境保全の高揚を図るなどの提案を行い、市民の皆さんにメダカの保護に、理解をしていただく活動をしている。

また、現在は水生生物保護団体「酒匂川メダカトラスト会」を結成して活動している。

(注)メダカは1999年環境庁のレッドデータにより絶滅危惧種(II類)です。



杉崎さんと市職員のメダカ採集

県民懇談会に参加して 湘南なぎさ事務所主催

7期 齋藤 美代子

私は平成12年、13年湘南なぎさ事務所主催、県民懇談会に出席しました。

これは「開かれた県政」の一環として、湘南なぎさ事務所が行う公共事業に対して、理解を深め今後の事業に対して県民の意見を反映させる目的で開催されたものです。

湘南なぎさ事務所管内の仕事は、主に大磯から江ノ島で、「海岸事業(侵食対策)」、「134号線道路事業」、「砂防林事業」、「港湾/公園事業」等を行っています。

私の大好きな湘南海岸は、「日本の白砂青松100選」に選ばれ、紺碧の海、空、美しい松林、松林の向こうには富士山を眺めることができます。今回懇談会に参加して、私はかつて息子と、なぎさ事務所主催の第1回10万本植樹と第2回20万本の植樹フェスティバルに参加した懐かしい思いが蘇ってきました。またこの10年の間、地元中学生の「江ノ島から平塚までの20kナイトハイク」を

実施しているので、なぎさ事務所事業はとても身近に感じながら楽しく参加する事が出来ました。

事業概要の説明を受けたり現地見学をしたりして私達は多くの意見交換をしました。

海岸のゴミ対策について。

ヘッドランド周辺の安全対策について。

海岸整備事業は防災の面から相模湾全体を考え、長期的な展望又環境に配慮して進めて欲しい。

ダイオキシン等発生源対策は徐々に進んでいるが、川や海の浄化対策が遅れている。

県民参加について、など。

出席者の問題意識が高く活発な意見交換がされました。

土木事業は県民が安全で快適に暮らす為の環境整備をする大切な事業で、住み手としての私達県民の意見が反映される事はとても重要に思います。

2年の間、公共事業を見たり聞いたり討論する事で湘南のなぎさがより身近になり、今後、愛を持って見守って行きたいと思っています。

現在ザンビアで勤務中

2つの環境問題

8期 安丸 元一

私は8期の安丸です。縁ありまして JICA・シニア海外ボランティアとして、昨年11月より2年間の任務で、ザンビアのルサカ市に滞在しています。ご要請によりザンビアの環境問題について、私の関心のある二つの問題について述べます。

ザンビア共和国は1964年・東京オリンピック中に誕生し閉会式に現国旗を掲げ行進したことで、日本人に多少知られた国です。海拔1,000m～1,500mの内陸サバンナ地帯で、面積は日本の2倍あり、銅を始め多くの鉱物資源に恵まれ、年中緑と美しい花々が咲き乱れ、美しい空と空気に包まれた国です。しかし人口は日本の1/12、国民総生産は1/1250という貧しい国です。

ザンビアの環境問題の中でも、野生生物の枯渇については、ザンビア人のみならず、全世界の人々が関心を寄せている課題です。1994年・環境省は、環境アクションプランを発表し、野生生物保護と枯渇防止を訴えています。問題点を12項目掲げており、要約すると近代化による鉱業と採鉱、道路・ダム建設、人口増大による Land use pressure、森林伐採、森林火災、また観光事業発展による、過剰開発・密猟等であり、最後に人員・組織の貧弱・管理不足を挙げています。これに対する9項目のアクションプランを要約すると、国立公園を始め地方自治体組織・各種共同体・観光業者あるいは個人土地所有者への、組織・管理を見直し、各種野生生物の棚卸を進め、民間の力を利用しながら、多くの動物飼育ファームを設立するとあります。

8年後の今、どう進展し変化したかを、国の最高機関（第三セクターされた）である ZAWA（Zambia Wildlife Authority）の Head of Research Mr.Chansa に質問したところ、Director Mr.Kampambe から各項目について文章で回答を貰いました。主旨は10年近く前の白書であり、現実には合わない所もあり、また民間の力利用は、利益優先のため少ない資本が宿泊施設や、観光施設に回り本来の仕事に回らないという問題もある。このような中で一部 JICA の支援も受け着実に計画・実施しているが、人材と資金の不足で、ZAWA の運営が危機状態にあるとの事です。その後面談しましたが、支援要請の話がなく、私の身分は「神奈川環境学習リーダー」「神奈川地球市民メッセンジャー」として、広く日本の国民に実状を訴える事を約し退散しました。その時の写真を添付します。



首都ルサカの更なる問題は、廃棄物処理でないかと思えます。町のいたるところの空地には、大量の廃棄物が散乱し、道路脇の雨水用の溝、ミニバス停留所には廃棄物の吹き溜まり、所々では野焼きが行われています。最近の Time of Zambia 新聞にこの問題が掲載され、その中で廃棄物処理協会（IWM）のコーディネーター Mr.lifuka は発言しています。

「廃棄物汚染防止・教育推進キャンペーンが必要であり、企業も民間の反ごみ作戦のスポンサーとなり以下の4項目を実施するべきだ」と。

1. 学校での環境ケア活動
2. 広告板、新聞、雑誌による一般大衆へのメッセージ
3. TV、ラジオでプログラムを組む
4. 処分方法を知らず製品にエコ・ラベルを貼る

更に彼は言っています。「このようなキャンペーンだけでは、不十分であり、廃棄物汚染防止を推進する為に地方自治体は、廃棄物処理システム及び法律を早急に検討すべきであるし、法律違反に対する罰則規定も作らねばならない。また一般企業は一般市民が廃棄物を最小限にするような商品のデザインを考え、その処理方法までもエコ・ラベル等を通じ働きかけるべきである」と。

この内容は関係者、知識人が問題意識をもっている事も解りますし多くのザンビア人に訴えたものであります。このような状況は戦後の日本にも見られました。その材料は自然界から来たものでしたが、アンバランスな近代化はザンビアの廃棄物の大部分をプラスチック製品で占めており、処理も困難を来すでしょう。一日も早くこれら廃棄物を最小限におさえるシステムを確立し、不幸にして発生したものはダイオキシン等・有害物質の出ない処理方法で処理したいものです。

これでザンビアの環境問題の一端を述べましたが、先進国が経験した負の遺産をこれら開発途上国が引き継がないよう先進国の環境問題リーダー達の強力な支援を望みながら雑文を締めます。

第6回永池川・川歩き

5期 渡邊 吉一

海老名市内を流れる「永池川」に於いて5月11日(土)に「第6回永池川川歩き」が今年も開催されました。

平成7年度から継続して調査している水質の検査 [COD、NH₄、NO₂] と、ゴミのクリーンアップ、そして平成10年度から実施して今年で4回目になる「水生生物」のウォッチングなどが主たる目的です。

永池川は市内の「浅井の井」を水源として相模川にそそぐ一級河川ですが、川幅も狭く流域も短くてとても一級河川には見えません。かつての水源でもあった「浅井の井」の湧水は枯れていて、現在の水源はと言いますと雨水と雑排水、それに田植え時季に相模川からの導水路による増水です。永池川の一部は「東部排水路」の名称になっています。

川の幅は約10mで平常の水深は子供の膝位でしょうか、市内とは言っても田圃があってその縁を流れている小川で、のどかな田園風景の一幕を見せてくれています。

水質は雨水と雑排水と言っても不思議にそんなに悪くはありませんが、やはり市街地を流れている河川でしょうか「ゴミ」に関しては多量に有ります。大型の「ゴミ」は減りましたが、雑ゴミ・空缶・ペットボトル等はまだまだありました。

水質は調査の日時によって、また場所によって大幅なバラツキがあります。

記

主催：永池川川歩き実行委員会

場所：海老名美化センター近接「永池川」

記録：前日からの降雨が夜間・早朝まで続き水量が多い

気温 17、水温 15

水質 COD=7.0、pH=7.5

観察：魚類 ギンブナ、メダカ、ドジョウ

貝類 マシジミ、サカマキガイ

昆虫 シオカラトンボ、ハグロトンボ、オオイトトンボ、アメンボ

その他 ニホンザリガニ、アメリカザリガニ、シマイシビル、クサガメ

特記：「ニホンザリガニ」(2匹、正式名称は未確認)のウォッチングは特記すべき事項になります。

2匹が共に稚児(体長1.5mm位で数百匹)を腹部に養育中でした。

は見つかりませんでした。居ることは間違いありません。

注記：1.今回は下流域が工事中の為に相模川との流れが中断(魚止め)していました。

2.過去に記録された「カワゲラのなかま、ナマズ、モクズガニ」は観察が出来ませんでした。

指導：環境学習リーダー 渡邊 吉一、小林 義博

掲示板

会費納入のお願い

当会の活動は皆さんの会費で支えられています。

13年度、14年度の会費未納の方に振替用紙を同封します。至急郵便局で振込みくださいますよう、お願いいたします。

郵便振替番号：00230-4-30769

神奈川県環境学習リーダー会

創作と写真の展示

「三浦半島・大楠山周辺の身近な自然観察を通しての短編小説・エッセイと写真展」

出展者：森千春(7期)とその夫

日時：7月15日(月)～19日(金)

10:00～17:00

場所：葉山町一色1999-4

葉山一色郵便局(葉山御用邸前)

TEL 0468-75-6000

問合せ：森 千春(TEL 0468-57-0835)

情報提供のお願い

この「掲示板」は皆さんのページです。当会報は奇数月の月末発行予定ですので、翌月・翌々月の活動の情報をお寄せください。

編集後記

今年は季節が早く進んでいる気がする。3月下旬には桜が満開になり4月に入ると葉桜になった。小諸懐古園の桜も2週間も早く満開になった。また、秦野で5月10日、平塚で5月14日蛍が見られ、ともに例年より10日くらい早いという。5月だというのに梅雨なみの雨が続く。今年のみ異常かもしれないが温暖化が着実に進んでいるのは事実だ。温暖化防止へ環境学習リーダーの地道な啓発活動が求められる。
広報部 原園 信夫

発行人：神奈川県環境学習リーダー会

代表 清水 幸夫

編集人：広報部長 森 千春

TEL 0468-57-0835 FAX 0468-57-0837

発行日：2002年5月26日